

## 学習発表会実践報告 第2学年

### 1. 教科

2. 単元名「どきどき わくわく まちたんけん ～町のぼうさい・あんぜん～」

### 3. 単元の目標

地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見付け、地域にはさまざまな場所や自然、公共施設、安全のための標識や防災設備があることに気付くとともに、地域の場所に親しみを持ち、適切に利用したり、安全に気を付けて生活したりしようとすることができるようにする。

### 4. 防災教育との関わり

まちたんけんを通して、防災施設や防災設備、災害について自分たちの町について知るとともに一之江の町について愛着を高める。

### 5. 単元指導計画

時	内容 ○目標	防災との関わり ●防災教育の目標
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や家の周りにはどんな施設や遊ぶ場所があるか知ろう。</li> <li>・自分たちの学校や家の周りで今までに行ったことがある場所を紹介し合い、「一之江マップ」を作る。</li> <li>・自分の町の「おすすめ」や「すてきなところ」を町探検を通して見付け、友達に紹介する学習をすることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の町の様子を知る。</li> <li>・新中川がある。(水害)</li> <li>・環七通りがある。(交通事故)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町探検に出かける計画を立てよう。</li> <li>・学区域を大きく3つの赤コース、ピンク・オレンジコース、水色コースに分け、自分が行きたいコースを決める。</li> <li>・探検の約束事を確認する。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町のひょうしきや、ぼうさいせつびをしろ う！</li> <li>・安全を守るための道路標識や看板、災害が起こった時のために防災倉庫などがあることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活科教科書(新しい生活 東京書籍 p8) 防災施設・設備、道路標識が私たちの生活の役に立っていることを知る。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町探検に出かけよう。</li> <li>・赤、ピンク・オレンジ、水色の3つのコースに分かれて、町探検に出かけ、地域にどのような施設や場所があるのか、安全や防災についてどのような標識や施設、設備があるのかなどを見付ける。</li> </ul>	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に備え、公園に防災井戸、備蓄倉庫、防災貯水槽などがあることに気付く。</li> </ul> <p>安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横断禁止、止まれなどの道路、標識や歩道橋などがあることに気付く。</li> </ul>

5	○町探検をまとめよう。 ・スマイルノートやコラボノートで、発表したものを写真と文でまとめる。	●町探検で見つけた防災・安全の設備や施設がどこにあり、どんなものなのか詳しく調べ、まとめる。
6	○発表の準備をしよう。 ・発表で使うコラボノートを見ながら、発表原稿を作成する。	・コラボノートの町のマップに写真を張りつけ、場所について共有する。
7	○見つけたことをつたえあおう。 ・コラボノートの発表機能を使って、町の防災や安全を紹介する。 ・自分たちの住む町の防災・安全について考える。	

## 6. 本時

### (1) 目標

町探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの生活と関わっている場所やもの、標識や防災設備がたくさんあることに気付き、それらを自分たちの生活に取り入れようとする。

### (2) 展開

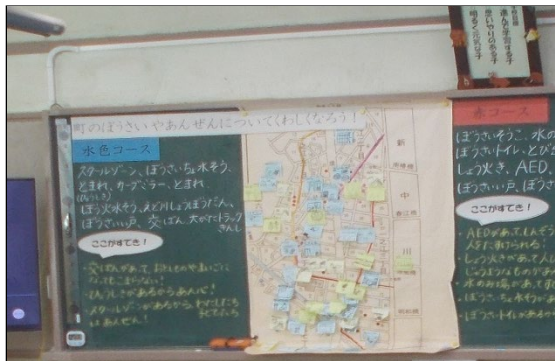
学習活動	指導上の留意点
1 本時のめあてを確認する。  ④町のぼうさいやあんぜんについてくわしくなろう。	
2 赤色コースの発表を行い、どのようなものがあるのかを知る。 消火器、防災井戸、防災トイレ、防災倉庫、AED、標識など	○事前に発表するものについて、コラボノートを使って地図上にまとめ、写真を見せながら発表できるようにする。 ☆コラボノート、スマイルノートを使って、写真と文で探検カードを作成する。 （【知・技】情報活用の方法）  ※思・判・表（発言・ワークシート） 町探検を通して、自分でまとめて発表できたことや、友達の発表のよさに気付いている。
3 ピンク・オレンジコースの発表を行い、どのようなものがあるのかを知る。 公衆電話、地図、自転車ナビマーク、防災貯水槽、標識など	
4 水色コースの発表を行い、どのようなものがあるのかを知る。 スクールゾーン、江戸川消防団、交番、防災井戸、カーブミラーなど	
5 自分たちの住む町の防災・安全について考える。 ・どのコースにも標識があるから安全に登校できている。 ・安全に過ごせているのは、標識や看板などがあるからだ。	

<p>・災害が起っても防災倉庫や防災井戸、トイレなどがあるから安心。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	
---	--

(3) 評価

町探検を通して、自分でまとめて発表できたことや、友達の発表のよさに気付いている。

7. 授業の実際



各コースのすてきを発表

水色コース・赤コース・ピンクオレンジコースに分かれて、まちで見つけた防災施設や防災設備、安全を守るためにある標識などを発表した。

- ・地図のどこにあるのか
- ・どんな役割があるのか
- ・どう生活に生かしていきたいか

上記の項目で文をまとめ、電子黒板に写真を投影しながら発表した。



各コースのすてきをワークシートにまとめる

発表を聞き、コースごとに「あったもの」「ここがすてき」をワークシートに個人でまとめた。その中で、「すてきだな」と思った防災施設や標識について取り上げ記入した。防災施設に関しては、「水色コースには、消防団の本部があるから安心」「赤コースには備蓄倉庫がたくさんある。家がたくさんあるからだと思う。」などとまとめていた。



自分たちの町のすてきを発表

各コースの防災施設や防災設備、安全を守るためにある標識などの発表を聞き、自分たちの住む町の防災・安全について考えた。児童からは、「火災があっても家のすぐ目の前に、消火栓や消火器が多く設置されていて安心。」「近くの公園に行けば、備蓄倉庫があって、食料や毛布があって安心。」などの意見が出た。

8. 成果

<p>この学習を通して、防災設備・施設、標識、消防団の人々が自分たちの暮らしを守ってくれていることがわかった。児童は、自分の家の近くの防災設備・施設、標識を知り、災害が起きたときや普段の生活で安全に過ごすための行動を考えることができた。</p>
--